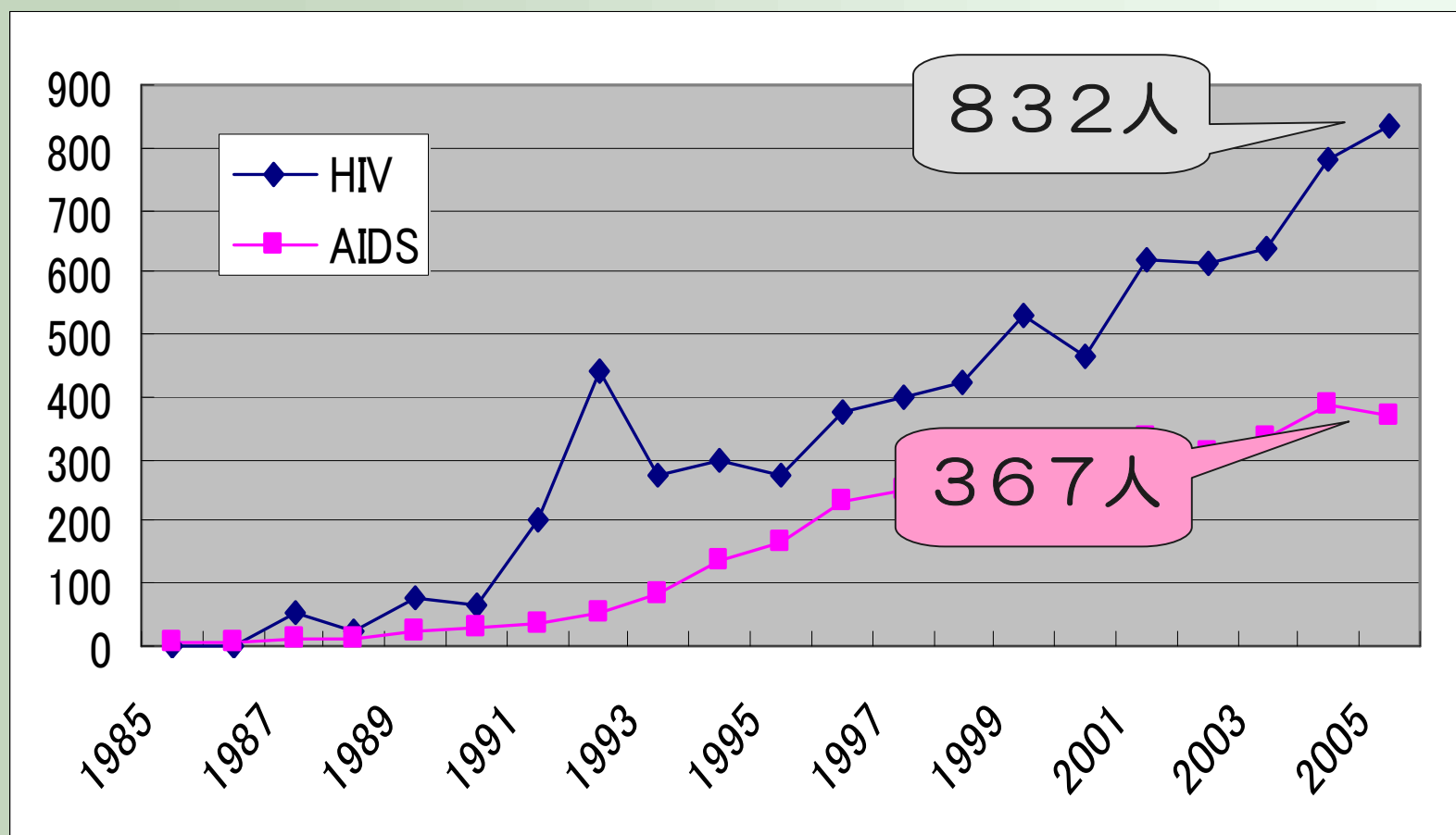


若年者性感染症対策事業の展開について

宮崎市保健所 保健予防課

日本における HIV感染者・エイズ患者の現状



日本のエイズ発生動向に

関する問題点

- 若い世代や同性愛者における感染者の増加
- 診断時に既にエイズを発症してる事例が約30%を占めている。

「後天性免疫不全症候群に関する 特定感染症予防指針」

(平成18年3月2日厚生労働省告示第89号)

- (1) 個別施策層に対する普及啓発
(特に、青少年及び同性愛者)
- (2) 相談・検査体制の充実強化

宮崎市保健所における 相談・検査事業の実施状況

- 平成**11**年度 HIV検査開始
- 平成**15**年度 **STD**検査を項目に追加

検査項目を
本人が選択

現在の検査項目

- ・ HIV
 - ・ 性器クラミジア感染症
 - ・ 淋菌感染症
 - ・ B型肝炎
 - ・ C型肝炎
- } 40歳以上

- 平成**17**年度 HIV迅速検査導入

検査の実績(平成15年度～平成17年度)

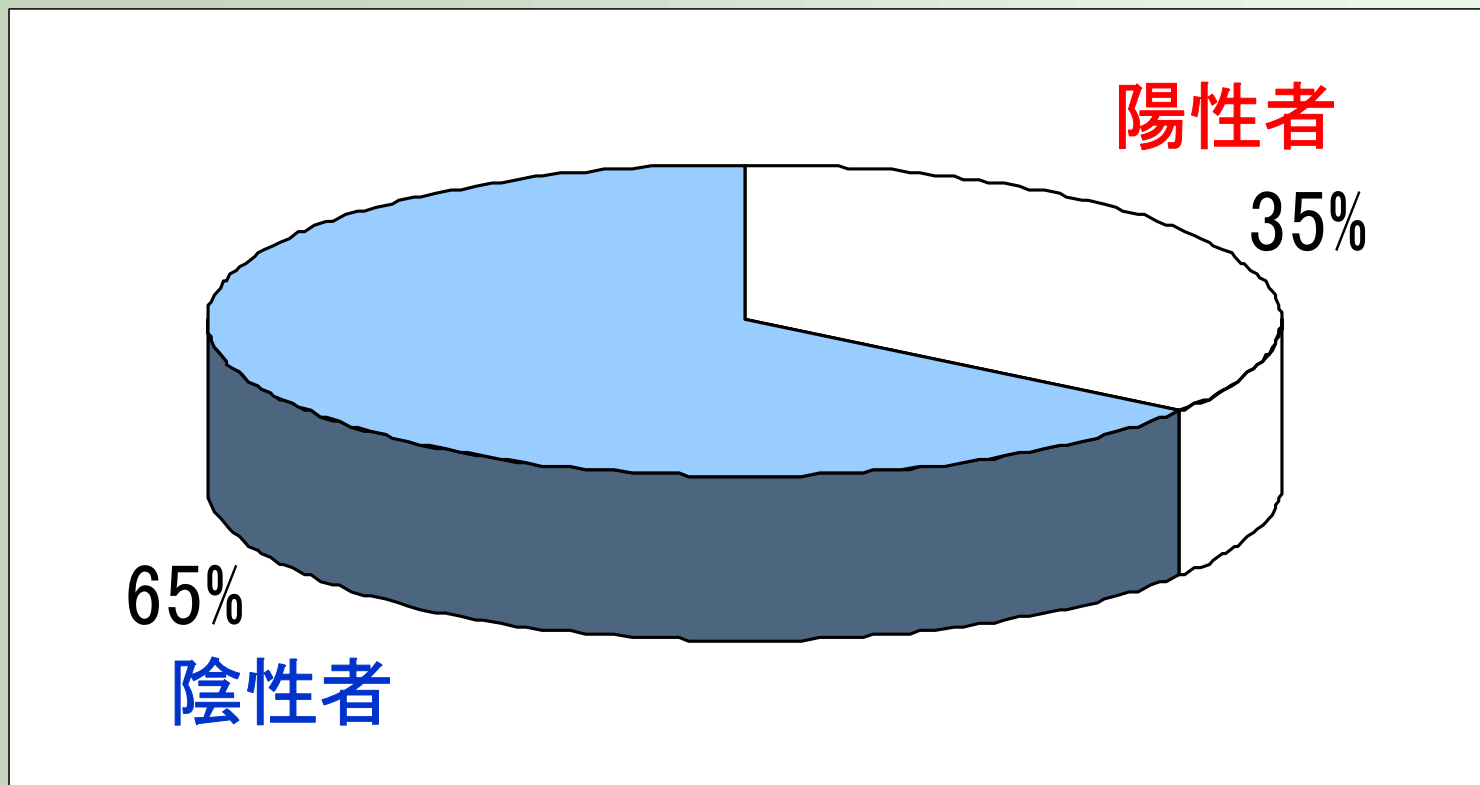
■ 受検者の年齢構成

	10代	20代	30代	40代	50代以上	合計
H15年度	15 (12)	88 (68)	40 (34)	17 (13)	19 (9)	179 (136)
H16年度	18 (17)	92 (74)	39 (37)	12 (11)	10 (5)	171 (144)
H17年度	14 (12)	119 (73)	57 (37)	13 (8)	22 (14)	225 (144)

()は性器クラミジア検査を受けた人

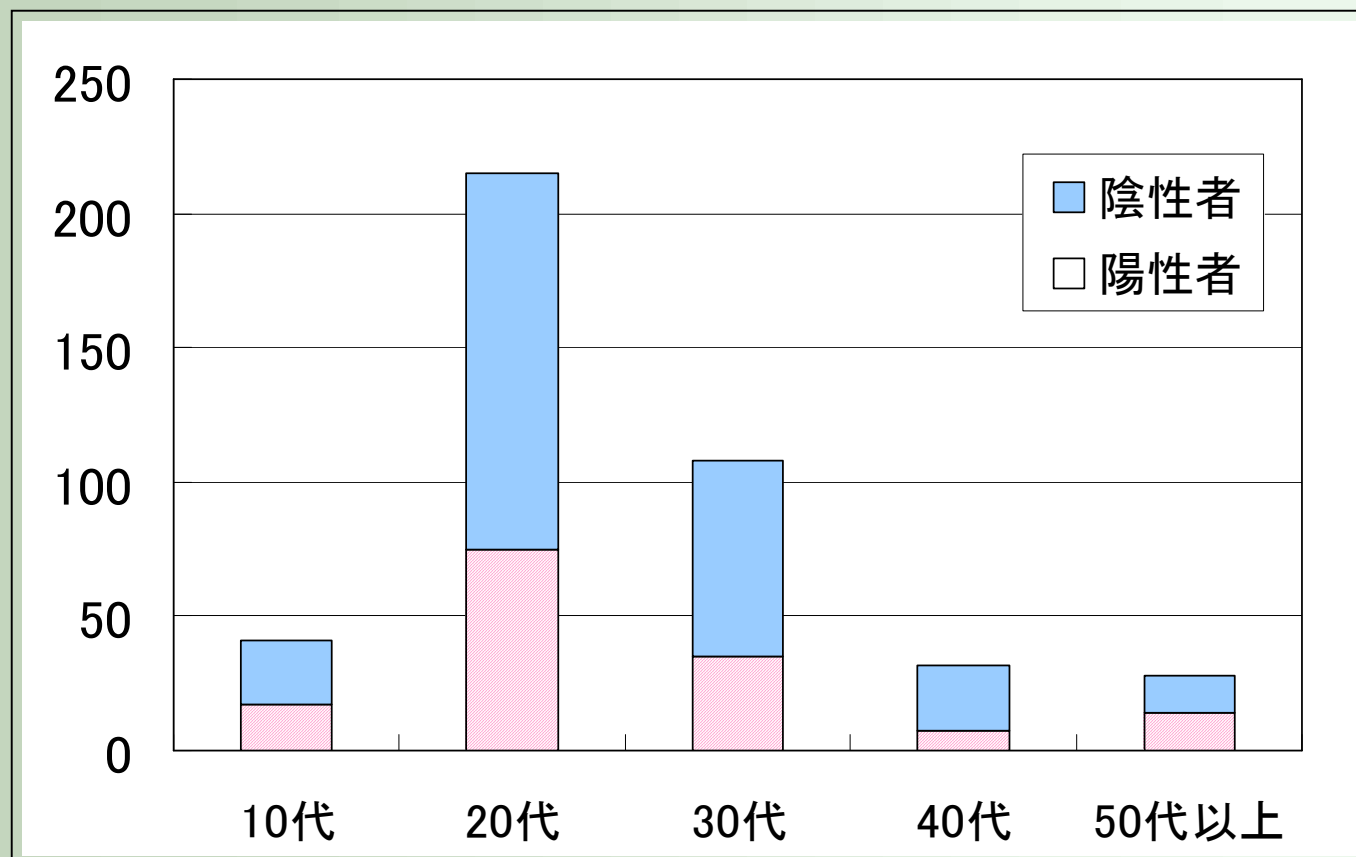
検査の実績(H15年度~H17年度)

- 性器クラミジア検査の抗体陽性率



検査の実績

■ 性器クラミジア検査の年代別抗体陽性者数



考察

- 20代、30代の受検者が多く、平成15年度以降増加
 - ⇒エイズや性感染症、検査に対する意識の向上
- 20代、30代の性器クラミジア検査の抗体陽性率が高い
 - ⇒リスクの高い性行動

若年者性感染症対策事業

高等学校（17校）

- 平成17年度までの実施回数 **2校／年**

事前の予防が大切だと実感した

雑誌やテレビで性についての情報は、それが正しいかどうかを考えていけない

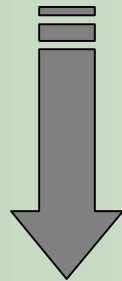
実施回数を6校／年に拡充

（3年で市内全ての高等学校において実施）

若年者性感染症対策事業

専門学校（20校）

- 保健指導担当の職員が配置されていない
- 感染の機会拡大のおそれ



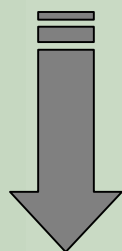
積極的な関わりが必要

□保健師による講話

□検査の機会を提供

相談・検査体制の充実強化

- 相談・検査窓口の周知



啓発ステッカーの作成

啓発ステッカーの掲示場所

- 市内の飲食店
(市食品衛生協会員)
- 市内の美容院
(県美容業生活衛生
同業組合宮崎支部)
- 市保健所、市庁舎、
市立公民館 等



ステッカーの掲示

